



## 当たり前の幸せ

今年も、学校の昇降口前にあるヤマボウシの木に白い花が咲きました。そして、校舎の軒先にツバメが巣を作りました。こうした光景は、毎年変わらぬ当たり前のことですが、こうした当たり前の光景を見ることができると小さな幸福を感じます。新型コロナウイルス感染症のまん延により、これまで当たり前だった生活が大きく変わってしまったことも、そう感じさせるのかもしれない。



5月28日に、本年度の「スポーツ集会」を行いました。3年ぶりに全校児童が運動場に集まっての開催でした。各家庭2名までという制限はありましたが、大勢の保護者の皆様も子どもたちの演技や競技を見守って下さいました。1～6年生の演技や競技、そしてそれを笑顔で見守る保護者の皆様。3年前までは当たり前だった光景ですが、こうして改めて目の当たりにすると、「スポーツ集会を実施できること、そして子どもたちの精一杯の姿を見ることができるとは、何て幸福なことなのだろう」とつくづく思いました。感染症だけでなく、大きな災害や戦禍に巻き込まれている子どもたちのことを思うと、平和の尊さを思い、平穏であることへ感謝したのです。

## たくさんの方々のおかげで…

さて、本年度のスポーツ集会はいかがだったでしょうか。

入学してあまり時間のない中で、張り切って覚えたダンスや、どうしたら速く走ることができるのかを考えて練習したリレーに一生懸命取り組んでいた1年生。ちょっと難しい振り付けのダンスや、ボールを落とさないようにみんなで作戦を立ててウーバーボールに挑戦した2年生。元気いっぱい、笑顔いっぱいでダンスを踊り、ありったけの力で綱を引っ張っていた3年生。くたくたになるまで練習したソーラン節を体全体で表現し、何度も話し合い練習してきたバトンパスでクラスの団結力を見せた4年生。フラッグダンスでも、メディシングボールリレーでも、仲間と息を合わせようと絆を深めた5年生。美しく力強い表現活動で、息の合ったバトンパスで魅せた学級対抗リレーで、仲間と力と心を合わせ、最高のパフォーマンスを発揮した6年生。応援席で下級生へ惜しめない拍手を送るなど、下級生が憧れる六合小のリーダーの姿でした。



こうして子どもたちが思う存分スポーツ集会を楽しむことができたのは、たくさんの方々の御支援があったからです。熱い中、最後まで応援して下さいました保護者の皆様。熱中症対策にと、多くのテントを貸し出して下さった六合コミュニティ委員会、六合中、六合東小の皆様。子どもたちの安全を見守って下さった地域の皆様。そして、片付けに力を貸して下さいました保護者の方々。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(校長 小林 正宣)